

2020年10月21日
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

「2020年夏期 東海3県主要集客施設・集客実態調査」の結果を公表

帰省自粛や夏休み期間の短縮など、新型コロナの影響で約8割の施設で集客数減

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：村林 聡）は、2020年9月に「2020年夏期 東海3県主要集客施設・集客実態調査」（東海3県の主要集客施設90施設を対象としたアンケート調査）を実施し、有効回答を得た80施設の夏期（7月21日～8月31日の42日間）の集客実態を分析し、その結果をとりまとめました。

1. 調査結果の概要

前年との比較が可能な79施設のうち、約8割（84.8%）の67施設で集客数が前年を下回る結果となりました。帰省自粛や団体旅行の減少、学校の夏休み期間の短縮といった、新型コロナウイルスの流行に伴う活動変化が大きく集客数減少に響いたほか、例年よりも遅い梅雨明け（8月1日）も集客に悪影響をもたらしました。

集客数トップは、「ナガシマリゾート」（三重県桑名市）の約124万人で14年連続の首位となりましたが、県をまたぐ移動の自粛が影響し、集客数は大幅に減少しました。

対前年比で集客数が伸びた施設についてみると、増加率第1位となった「名古屋市東谷山フルーツパーク」（愛知県名古屋市）は、お盆期間中天候に恵まれたことや、若いファミリー層、地元客等の増加が寄与し、対前年比約6割（62.4%）増と集客を大きく伸ばしました。

屋内型施設では全21施設中20施設（95.2%）で対前年比減となったのに対し、屋外型施設や屋内・屋外複合型施設では対前年比増となった施設が一定程度みられ、密を避けることができる屋外型施設に客足が向かったことがうかがわれます。

調査結果の詳細は、当社ホームページ掲載の下記政策研究レポートをご覧ください。

「2020年夏期 東海3県主要集客施設・集客実態調査」

https://www.murc.jp/report/rc/policy_rearch/politics/seiken_201021/

2. 本調査について

本調査は、1998年より当社（当時は東海総合研究所）の自主研究として実施しており、夏休みの結果発表は今回で通算23回目を迎えました。

- **調査対象:** 東海3県(愛知・岐阜・三重)における年間約20万人以上の集客実績を持つ施設
※「遊園地・テーマパーク」、「動植物園・大規模公園」、「文化施設(博物館・科学館・美術館)」、「大規模コンベンション施設」、「商業施設を含む複合レジャー施設」等を指し、ホテル、百貨店、ショッピングセンター、寺社等は対象外
- **調査手法:** Web アンケート(送付数90 有効回答数80)
※アンケートは83施設より回答を得たが、夏休み期間中に全日休業した3施設を除く80施設を集計対象とした。

【本件に関するお問い合わせ】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

名古屋研究開発部 研究員 加藤 千晶

〒461-8516 名古屋市東区葵 1-19-30 マザックアートプラザ

【報道機関からのお問い合わせ】

コーポレート・コミュニケーション室 杉本 (TEL:052-307-1106) E-mail:info@murc.jp

配布先 名古屋金融記者クラブ